

第2次総合計画・基本構想（中間案）の策定について

1. 基本構想の構成の見直し

第2回総合計画審議会(1/25)における構成見直しに関する意見

目指す都市の姿・・・本来、社会経済情勢の変化などから導かれるものではなく、亀山市の積み重ねてきたもの（アイデンティティ）から導かれるものであるのではないか。

都市空間形成の考え方・・・亀山市の都市形成は、土地利用構想だけで整理しきれものではなく、土地利用とその上の空間がどのように活用されるのかを含めた都市形成の考え方として整理されるべきものではないか。



[見直しのポイント]

①将来都市像を導く考え方

亀山市の積み重ねてきた歴史や、本質的な特徴を踏まえ、将来のめざす姿を導き出す

《亀山市の現状》
普遍的な要素(位置・地形など)
と生い立ちや積み重ねられた歴史・歩みを踏まえたもの

+

《課題と見通し》
現状すう勢と課題
将来のくらしのイメージ
都市サービスのあり方

将来都市像

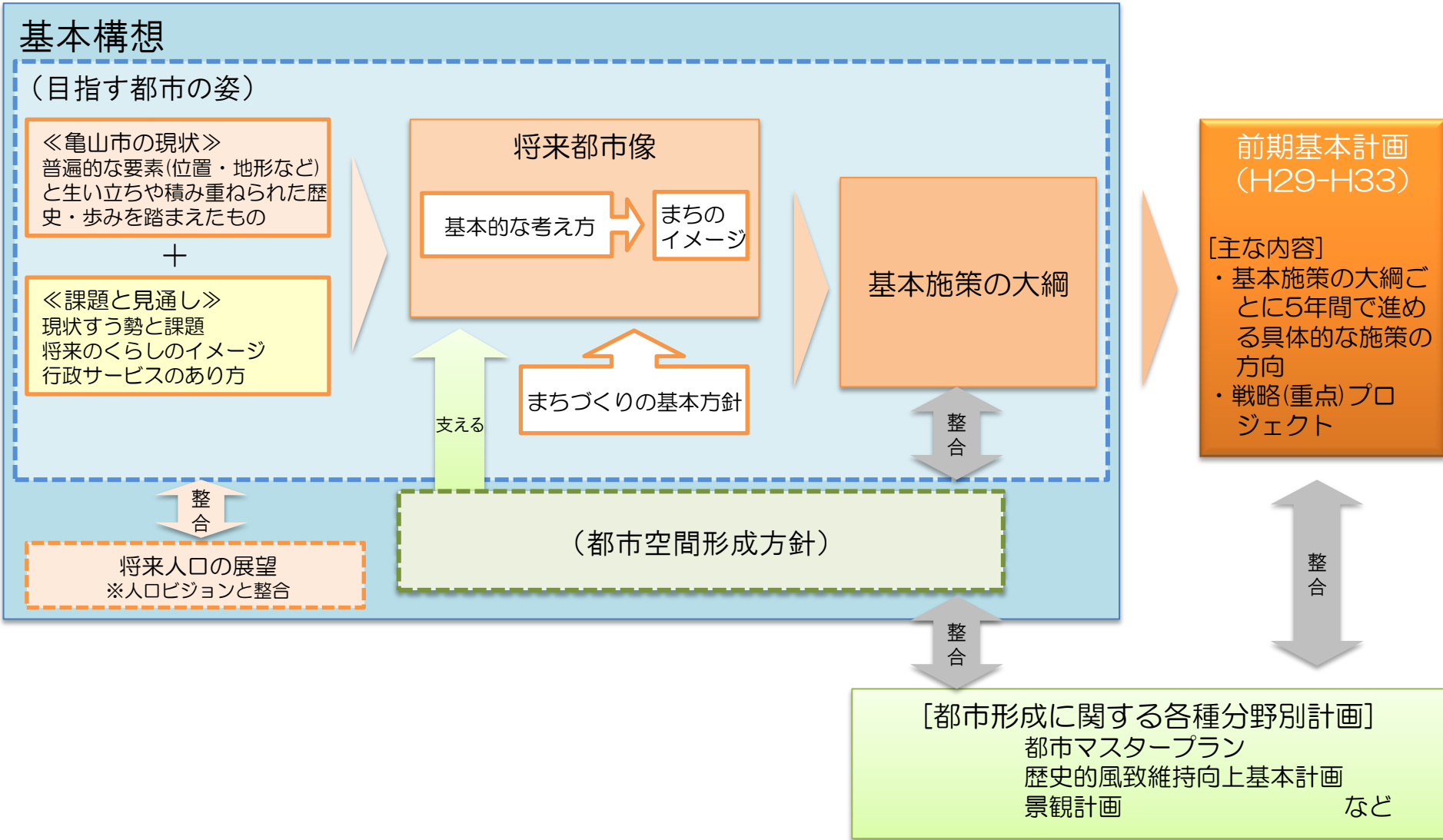
②土地利用構想から都市空間形成方針への見直し

従来の土地利用構想を改め、都市の機能や連携がどのように形成されるのかを含めた考え方として「都市空間形成方針」へ切り替える

《都市空間形成方針の考え方》
将来都市像の具現化を図るため、今後の都市空間をどのように形成していくのかを表すもの。
主に、都市機能の配置、連携の在り方を示すものとして整理する。

(都市機能)
自然、公共・公益施設、産業、交通

2. 基本構想の構成



3. 亀山市の現状

[亀山市の生い立ち]

前提となる普遍的な要素

(位置的要素)

日本の中央部に位置し、近畿地方の一部であり、東海地方の一部でもある。

(地形的要素)

西の鈴鹿山脈を背景に、市域を東西に鈴鹿川が流れ、起伏の多い河岸段丘地帯である。

生活の中にあふれる自然

市域のどこにいても、日常の中で身近にある鈴鹿山脈は、亀山市を象徴する要素でもある。また、市域を流れる鈴鹿川などの河川は、農業を支える水源となり、その流域に集落を形成している。一方、その流れは、起伏の多い河岸段丘状の地形を生み、過度な市街化を自然な形で抑制し、自然あふれる環境を残す本市の特徴につながっている。

積み重ねられた歴史・歩み

(道に彩られた歴史)

本市はその位置的要素から、古代から主要な道が横断し、伊勢への分岐点となり、「道」をキーワードに多くの歴史が彩られてきた。

古代三関の一つ・鈴鹿関 ⇒ 東西交通の中心・東海道 ⇒ 鉄道のまち ⇒ 広域高速道路の結節点 そして、リニア中央新幹線誘致の動き

(にぎわいと交流)

古くからの交流の歴史は、各時代における交通機能の形成において、本市をその舞台へと導き、にぎわいと交流の歴史へと導かれてきた。東海道と3宿、中でも関宿(国・重伝建)や、亀山城多門櫓(県・重文)は、本市の歴史的風致を活かすまちづくりの基軸となっている。

(交通ネットワークと産業の集積)

「道」による交通拠点性の高まりは、市域に多様な産業を集積させてきた。こうした産業基盤は、市民の生活の基盤となり、本市を内陸型工業都市へと発展させている。

(道と人々の暮らし)

高速道路網や鉄道網により、市民は手軽に大都市(名古屋など)や中規模都市(鈴鹿・四日市など)との往来が可能で、利便性向上につながる。

発展の礎

亀山市の現状

《くらしの機能と魅力が調和したまち》

日々のくらしを営む上で必要な商業・医療・福祉などの都市機能は、一定の集積が図られており、市内で充足できない機能は、充実した交通ネットワークを活かし、近隣市・大都市まで移動することで満たすことができます。

また、人口規模5万人の都市規模は、「顔が見える規模」であり、古くからの地域の人と人のつながりが残っており、活発な地域活動がなされる地域力や地域の絆にもつながっています。そんな「ちょうどいい」規模のまちで、様々な機能が調和した「亀山市」は、住む人にとって、「くらしやすさ・心地よさ」を持ったまちとなっています。

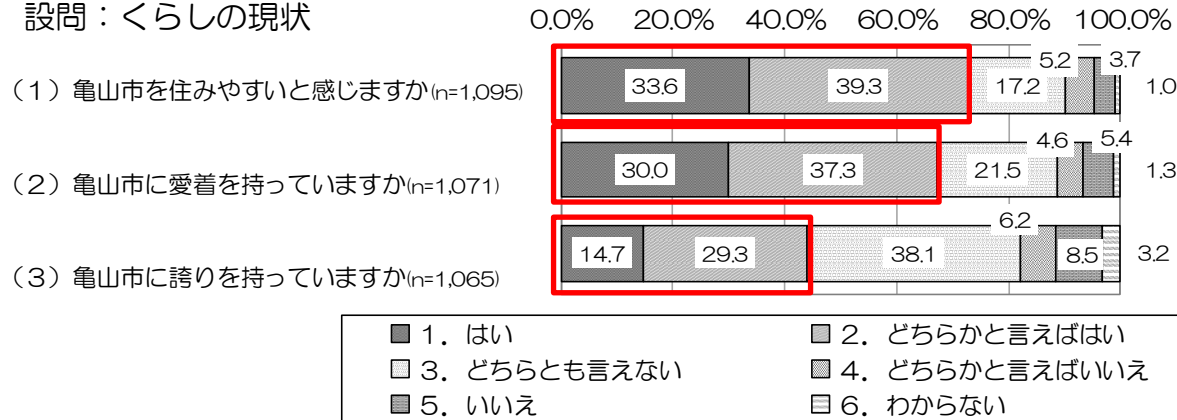
《ふるさと・亀山》

「道」が彩ってきた歴史文化は、人々のくらしと調和し、本市の大きな魅力となっています。

また、鈴鹿山脈をはじめとする生活の中にあふれる自然は、本市の原風景でもあり、『ふるさと・亀山』の想いの源泉となるものです。

(参考) 市民アンケート結果

設問：くらしの現状



亀山市を住みやすいと感じている人は、「はい(33.6%)」、「どちらかと言えばはい(39.3%)」を合わせて、**72.9%**

市に「愛着」を持つ人は、**67.3%**と高いが、反面、市に誇りを持つ人は、「はい(14.7%)」、「どちらかと言えばはい(29.3%)」を合わせて、**44.0%**

4. 課題と見通し

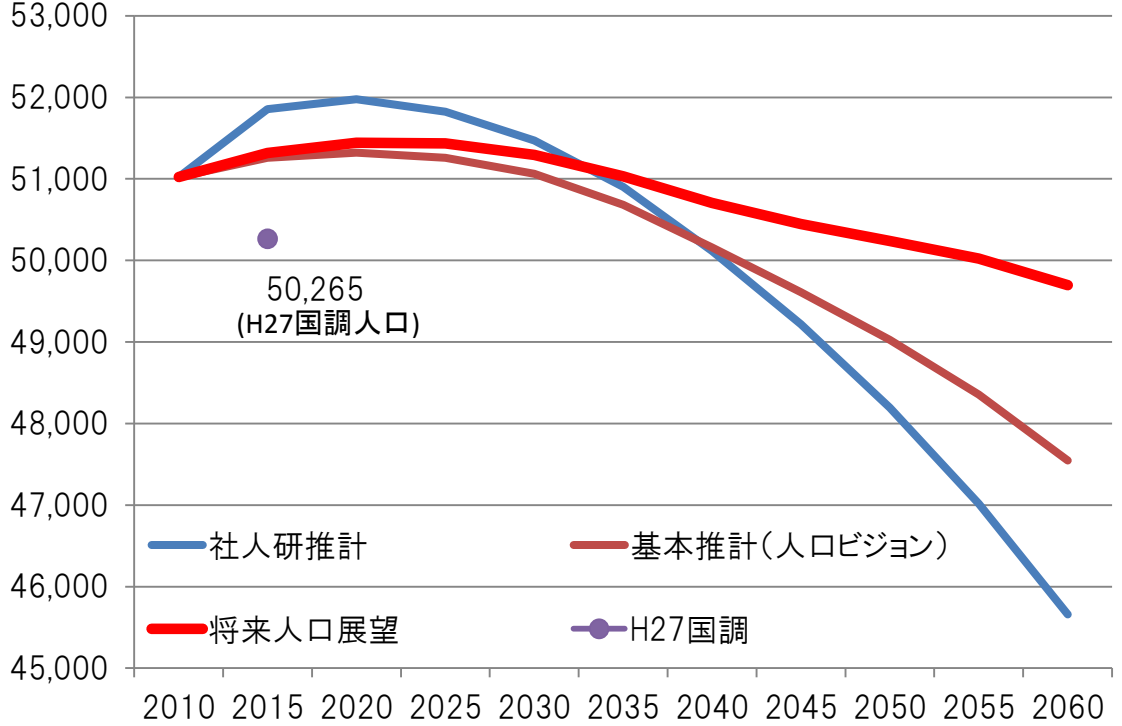
[人口減少社会への突入]

亀山市のみならず、我が国においては少子・超高齢社会が進展
 ※他市に比べ、人口増加の傾向の続いていた亀山市でも、H27国調では前年比758人の減少となり、人口減少局面に入っています

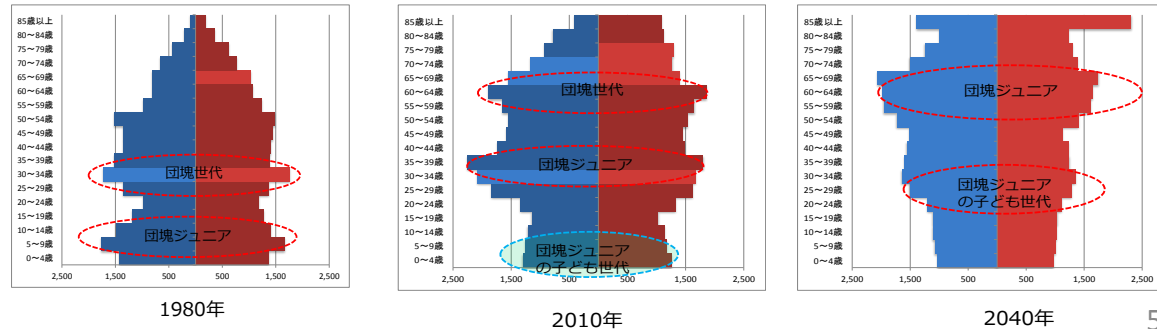
- 《主な課題》
- ▽様々な側面での都市の活力が喪失
 地域消費の縮小、生産年齢人口の減少
 ⇒生産能力の減退
 - ▽集落や地域コミュニティを維持する力の低下
 中でも、山間部や農村地域はこうした傾向
 ⇒森林・農地の荒廃
 ⇒災害への脆弱性が高まる
 - ▽人口バランスの悪化
 少ない若者が多くの高齢者を支える
 ⇒若い世代の更なる負担の増加
 - ▽行政活動への影響
 経済活動の低下から、税収基盤が悪化
 社会保障などの行政需要の増加
 ⇒行政活動持続性の確保
- ・・・など

人口は、自治体の最も根本的な要素であり、中長期的な視点で対策を取らなければならない課題として、**第2次総合計画における中心的な課題**として捉える

[亀山市の人口の見通し(人口ビジョンより)]



[亀山市の人口ピラミッド(社人研推計ベース)の変遷(人口ビジョンより)]



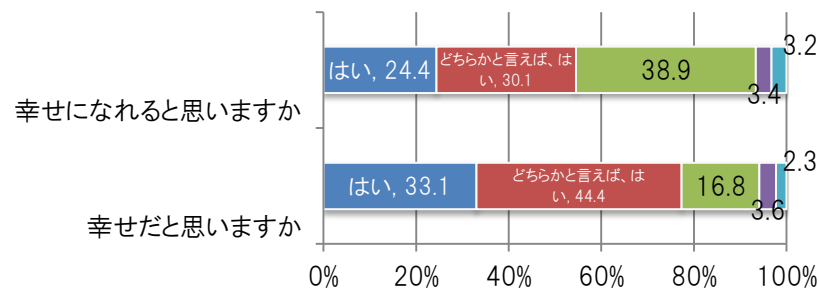
[将来のくらしのイメージ]

市民アンケートでは、「住みよさ」・「愛着」へは高い評価をしながらも、「誇り」への意識は低くなっています。

また、幸福感も肯定的意見が77.5%と高くなっていますが、将来への見通しは54.5%で、23%の低下がみられます。

市民の幸福の判断要素は、「健康」、「家計」、「家族」が強い傾向があるため、行政サービスによる直接的な引き上げは難しい面があります。

「住みよさ」のあるまちで、まちへの「愛着」や「誇り」を感じることでできるくらしを支えられるような施策の展開が求められています。



今の亀山市の「住みよさ」は、『中心的市街地や副次的市街地等の都市機能の集積している拠点と、周辺地域とが有機的に道路ネットワークなどでつながることで、必要な機能を活用できる快適さ』と、『くらしに身近な所にある豊かな自然環境や、各地域の特徴を持った歴史文化などのくらしを彩る魅力』が調和した中で、心地よくくらしを実現できるところにあります。

亀山市には、こうした機能との魅力がコンパクトなまちの中に調和しており、こうした亀山市のよさを活かし、過度な都市の拡大を進めるのではなく、今の「コンパクトなまち」としての機能を高め、有効に活用できるネットワークの充実を図ることで、更なる「住みよさ」の向上が求められています。

[行政サービスのあり方]

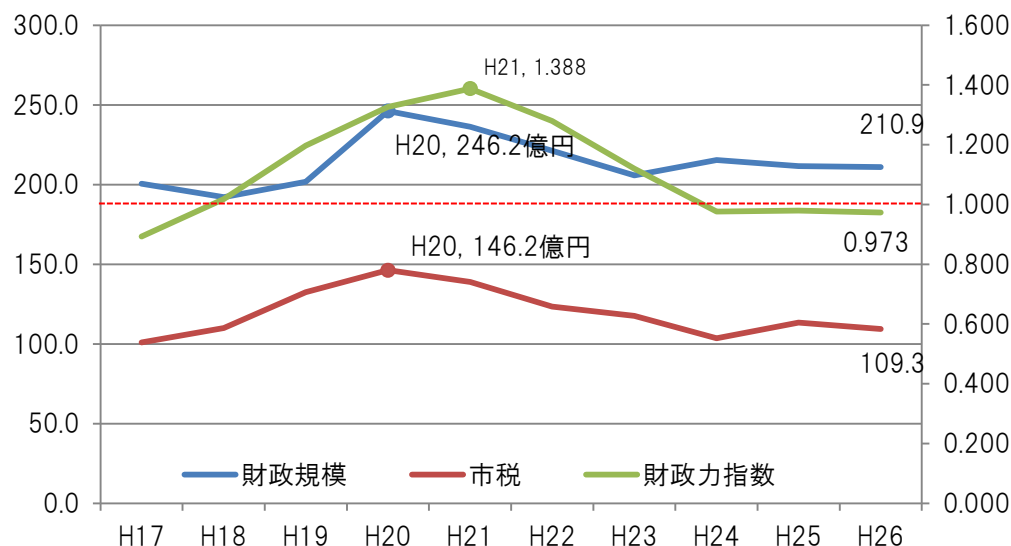
[効率的・効果的な行政経営]

リーマンショックによる景気の低迷からは脱しつつあるものの、市の財政状況は厳しい状況が続いています。

市税収入は、平成20年度の146億円をピークに大幅に減少し、市の財政規模もそれと並行して減少しています。

また、市の財政規模を表す財政力指数についても、市税収入と並行して大きく低下しています。

こうした財政状況にあっても、市民サービスの維持・向上をしていくためには、限られた経営資源を有効に活用し、これまで以上に効率的・効果的な行政経営を行う必要があります。



[地域との連携・協働によるまちづくり]

亀山市では、第1次総合計画における「まちづくりの基本的な考え方」である、「市民力で地域力を高めるまちづくり」を進める中、市民とともに検討した「亀山市まちづくり基本条例」を平成22年度に施行し、市のまちづくりの最も基本となる考え方を明らかにしました。

また、平成28年度からは、「亀山市地域まちづくり協議会条例」を施行し、地域においても、市内全域に22の地域まちづくり協議会が設立されました。

従来から活発であった市民活動や地域活動は、この10年間で、更に高められるしくみや土台が積み重ねられてきました。今後は、こうした市民力や地域力を活かし、連携・協働によるまちづくりを進める必要があります。

5. 将来都市像の基本的な考え方

亀山市の現状

《《くらしの機能と魅力が調和したまち》》

《《ふるさと・亀山》》

+

課題と見通し

[現状すう勢と課題]

人口減少社会への突入

- ▽様々な側面での都市活力が喪失
- ▽集落やコミュニティ機能の低下
- ▽人口バランスの悪化
- ▽行政活動への影響

[将来のくらしのイメージ]

くらしやすさと魅力の向上

- ・コンパクト＋ネットワークによる都市機能の充実
- ・幸福実感の向上
- ・愛着と誇りの醸成

[行政サービスのあり方]

効率的・効果的な行政経営

- ・厳しさを増す財政状況
- ・地域との連携・協働によるまちづくり

《《将来都市像の基本的な考え方》》

《《まちの健康と文化》》

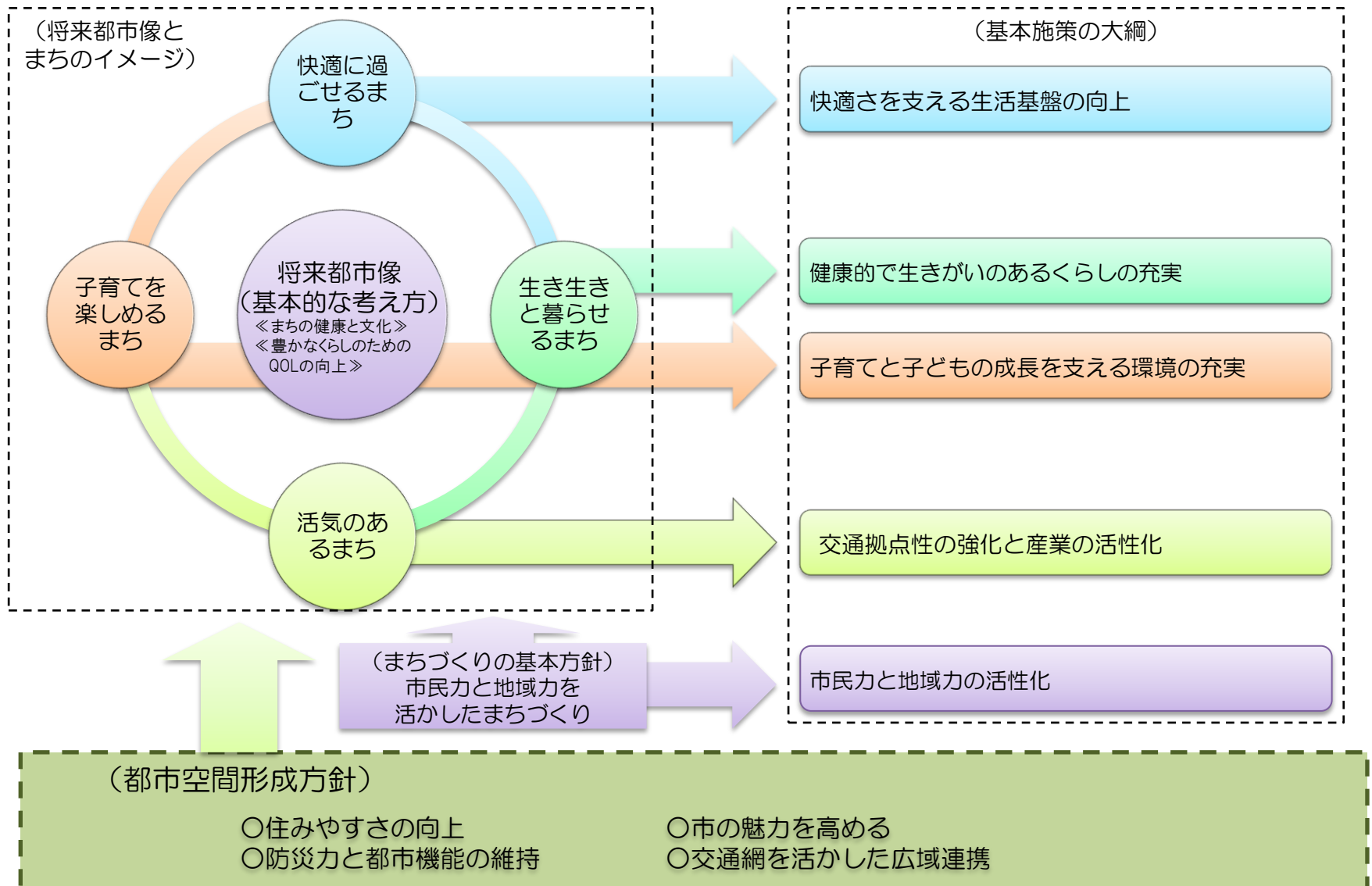
人が快適に暮らすための「まちの機能」と、自然や歴史文化などのくらしの中にある「まちの文化」が調和している今の亀山市の状態は、この地に暮らす人々にとって、心地よく、快適な環境であり、そうした状態は、『健康で文化的な』まちの状態であると考えられます。

《《豊かなくらしのためのQOLの向上》》

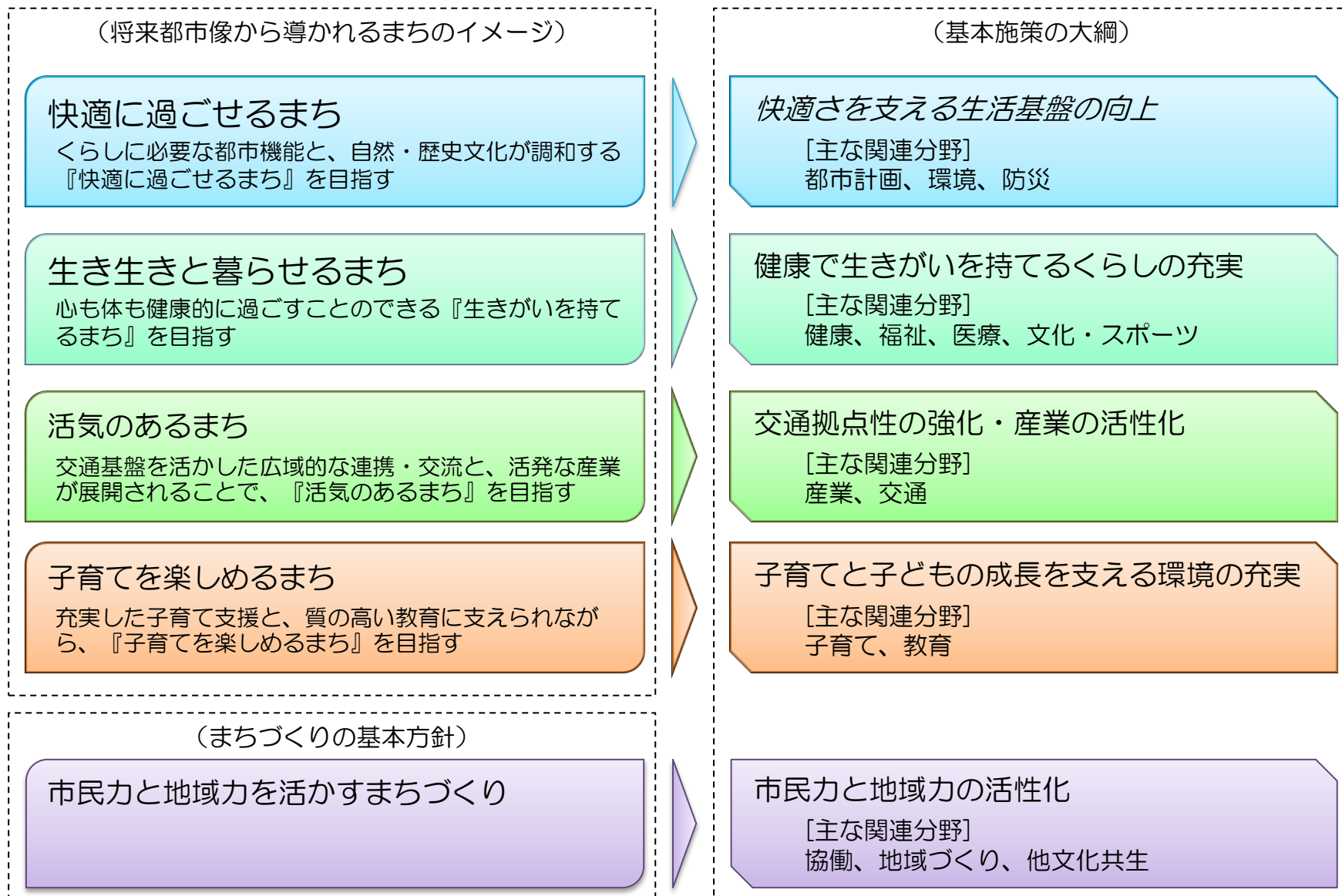
人が快適で豊かに暮らすことのできる環境の中で、健やかに生まれ、育ち、成長し、人と人との交流を持ち、地域の中でそれぞれの役割を果たしながら、生涯を通して住み慣れたこの地でくらし続けられることが、人々の豊かなくらしにつながるものと考えられます。

こうした、『まちの健康と文化』を高め、人々の『豊かなくらしのためのQOLの向上』を図ることで、この地が選ばれ、持続成長していく都市を目指していく考え方です。

6. 基本構想の全体イメージ



7. 基本施策の大綱



8. 都市空間形成方針の概要

《都市空間形成方針の考え方》

将来都市像の具現化を図るため、今後の都市空間をどのように形成していくのかを表すもの。

主に、都市機能の配置、連携の在り方などを示すものとして整理する。

(都市機能)

自然、公共・公益施設、産業、交通

基本方針

- 住みやすさの向上に重点をおいた土地利用の推進
- 地形や自然環境、交通網の充実など市の魅力の発揮
- 災害に対する防災力と災害発生時の都市機能の維持・確保
- 公共交通等による近隣市との広域連携の強化

(空間形成の考え方)

大目標: 住みやすいまちとして居住人口を確保する

◇定住の地として選ばれるまちへ魅力を向上させる

- ・都市機能や生活基盤の向上と魅力の調和
- ・子育て環境の向上や歴史・文化等の地域資源を活かした魅力あるまちづくり

◇クオリティ・オブ・ライフを向上させるため、活力ある土地利用の誘導を図る

- ・都市の活性化に視点を置いた土地利用の誘導と促進
- ・公共交通と都市形成が一体となった利便性の向上と、都市機能や居住が一体となったまとまりのある市街地形成を推進

◇安全な居住環境確保のため、都市の安全性を向上させる

- ・防災力の向上と都市機能の維持に視点を持った災害に強いまちづくり
- ・道路・公共交通の充実による日常生活の安全性が確保した基盤の整備

◇交通網の充実による近隣市との連携強化を図る

- ・鉄道等の公共交通や広域幹線道路網を活かした近隣市等との広域連携の推進

◇既存のインフラ機能を最大限活用したコンパクトなまちづくりを推進する

- ・生活の利便性や限られた財源を有効活用の視点から既存のインフラ等の都市基盤を最大限活用したコンパクトなまちづくりの促進

都市形成の横軸

市全体として自然環境を保全することは、本市の都市機能や市民の生活を維持・向上させるとともに、市の魅力を向上させるために必要である一方で、自然環境には、森林や農地、河川、緑地等があり、水源涵養や生産資源、防災、地球温暖化防止等の機能も様々であることから、各機能の維持・向上を図るための保全・活用を促進する。

都市空間形成図